



アウトメディアチャレンジ（4回目）の結果

2月中旬～下旬に実施した4回目の結果についてお伝えします。（1、2年生のみ）

- ・1年生 6月 7時間38分 → 9月 4時間29分 → 11月 5時間04分 → 2月 4時間49分
- ・2年生 6月 8時間24分 → 9月 8時間26分 → 11月 7時間18分 → 2月 7時間15分

1、2年生ともに、年度当初の1回目に比べて減少し、学年平均値で1日1時間程度を維持できています。生徒の記述欄には、「メディアを学習に利用した」との記述も見られるようになりました。動画投稿サイトを含め、様々な教育サービスによる「アプリを使った学習」が広がりを見せています。家庭での個別学習には有効であることは間違いのないのですが、ともすると息抜きがてらにゲームサイトへ…なんてこともあると思います。ここで「あれ、今何するんだっけ？」と気づき、自分をコントロールする力を身に付けてほしいと思います。これからの春休み期間に生活習慣が大きく乱れないようにするためにも、メディアとの付き合い方について、ご家庭で話題にしてください。

このことに関連して、3月13日に独立行政法人国民生活センターが「子どものオンラインゲーム 無断課金につながるあぶない場面に注意!!」というタイトルで注意喚起をしていましたので、ご紹介します。（啓発資料を裏面に掲載しました。）

子どもが無断でオンラインゲームに課金してしまったという保護者からの相談が多く寄せられています。契約当事者が小学生・中学生・高校生（以下「小中高生」という）のオンラインゲームに関する2022年度の相談件数は4,024件で、契約購入金額の平均は約33万円と高額です。

特に、スマートフォンやタブレット端末での小学生・中学生の無断課金に関する相談が目立ちます。そこで子どものオンラインゲーム無断課金が生じやすい場面と対策をまとめ、注意喚起します。

【事例1】

母親のスマホを母親のアカウントにログインした状態で小学生の娘に貸したところ、娘がアカウントのパスワードを変更して登録されたクレジットカードでゲーム課金してしまった。

【事例2】

日頃から、小学生の息子に母親の古いスマホを自宅のWi-Fiに繋げて使用させていた。課金には母親の指紋認証が必要な設定にしていたが、母親のアカウントにログインした状態であったため息子が自分の指紋を追加登録して約5万円ゲーム課金してしまった。

【事例3】

母親名義で契約し中学生の息子を利用者登録したスマホを息子に使用させていたところ、5カ月の間にキャリア決済で約5万円ゲーム課金してしまった。キャリア決済の上限額を引き下げることができるとは知らなかった。



保護者へのアドバイス

- ・保護者のスマホで遊ばせる場合は、保護者のアカウント（AppleやGoogle）は、必ずログオフしましょう。
- ・保護者の古いスマホや子ども専用のスマホで遊ばせる場合は、子ども専用のアカウントを作成し、「ペアレンタルコントロール」機能を利用して保護者が管理しましょう。この機能で課金を承認制に設定できます。
- ・スマホのアカウント決済とキャリア決済のそれぞれに、決済時の承認（パスワード、指紋認証、顔認証など）を設定しましょう。パスワードはお子さんが類推できない文字列で設定しましょう。
- ・クレジットカードは保管場所に注意が必要です。また、子どものスマホにクレジットカード情報を入力した際は忘れずに削除してください。
- ・キャリア決済は必要に応じ上限額を低くしましょう。子ども用のスマホを契約する際は特に注意が必要です。
- ・日頃から決済完了メールや明細を確認しましょう。
- ・子ども自身が考えて適切にゲームと付き合えるように子どもと一緒に行動する対策も重要です。子どもが遊ぶゲームの課金の仕組みを一緒に確認したり、オンラインゲーム課金についてルールを決めたりしましょう。
- ・民法では、未成年者が保護者の同意なく契約した場合は取り消すことができます。ただし、子どもが保護者のアカウントでログインしたスマホで課金した場合は、アカウントの所有者である保護者が決済を行ったとみなされる場合もあります。